

諸戸詩乃 (ピアノ)

愛知県生まれ。10歳のときにウィーンへ移住。ウィーン国立音大ピアノ準備科を経て、15歳でウィーン国立音大ピアノ演奏科に入学。エリザベート・ドヴォラック＝ヴァイスハール、故ハンス・ライグラフに師事。また、マスタークラス等において、フィリップ・アントルモンや遠山慶子にも教えを受けた。在学中より、深い音楽表現を求めて、国際リトミック指導者連盟会長のポール・ヒルにリズム理論と内的聴取法を学んだほか、即興演奏や音楽と身体の関係についても専門家について造詣を深めた。2018年3月同大学院を卒業し、さらに歴史的演奏研究科において研鑽を積む。同時に、ウィーン・アルティス・カルテットのペーター・シューマイヤー、ヴィダ・ヴチック、ゴッドフリード・ポコルニーのもとで室内楽を学んだ。現在は、クライブ・ブラウン博士のもとで19世紀時代考証演奏法を研究している。

演奏活動では、オーストリアにおいて、ウィーン・フィガロザールでのソロリサイタルを皮切りに、ベーゼンドルファー社やシューベルト連盟主催のコンサートに多数出演。またイタリアにおいても、ボローニャ歌劇場管弦楽団首席メンバーと、各地でたびたび共演し、好評を博した。日本・オーストリア国交150周年の2019年には、ウィーナ・ノイシュタットでの記念コンサートに、日本人ピアニストの代表として出演し、多くの聴衆より喝采を浴びた。その他、元ウィーン・フィルハーモニーのヴィオラ奏者ラインホルド・リーガーとも共演を重ねる。

日本においては、2005年、NHKのテレビ番組「スーパーピアノレッスン」にシリーズ最年少の生徒役で出演、そのモーツァルト演奏は講師のアントルモンから「きわめて洗練されたモーツァルト」との評価を受け注目を浴びた。また2007年に東京・紀尾井ホールにて行われたロイヤルチェンバーオーケストラ第64回定期演奏会では、指揮者の堤俊作によってソリストに選ばれ、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第2番を演奏、ジュニアの域を超えたその音楽的完成度を高く評価された。その他東京・浜離宮朝日ホール、名古屋・電気文化会館ザ・コンサートホール、愛知県芸術劇場コンサートホール等に出演し、好評を博した。

これまでに、カメラータ・トウキョウから、「モーツァルト:ピアノ・ソナタ集」、「シューベルト:即興曲集作品90 & 楽興の時」、「モーツァルト:変奏曲集-トルコ行進曲付き」(レコード芸術誌準特選盤)の3枚のアルバムをリリースしている。

日本アーティスト所属。